

ChatGPT 4o

Hi

6月25日(第196回)知財実務オンライン:「Making of 特許法講義」(.docx  
ドキュメント

ステップバイステップで要約を作成してください。

ChatGPT

この「6月25日(第196回)知財実務オンライン:『Making of 特許法講義』」の内容をステップバイステップで要約します。

#### ステップ1: イベントの紹介

- **司会者の挨拶:** 知財オンライン第196回として、東京大学の田村先生と札幌医科大学の清水先生を招待。
- **参加者の紹介:** 司会者(加島)とIPXの押谷がホスト。

#### ステップ2: プログラム紹介

- **次回以降のプログラム:**
  - 7月第1週: ドイツからのゲストによるユニタリ特許と統一特許裁判所について。
  - 7月第2週: ライブ配信限定で芸術文化短期大学の野田先生によるアニメ教材について。
  - 7月第3週: 韓国の知財産訴訟に関する講演。
  - 記念すべき第200回: 早稲田大学名誉教授の高林龍先生による特許訴訟の重要論点の講演。

#### ステップ3: 本日のゲスト紹介

- **田村善之教授:**
  - 学歴と職歴の紹介(東京大学法学研究科教授)。
  - 著作の紹介。
- **清水紀子特任助教:**
  - 学歴と職歴の紹介(札幌医科大学特任助教)。
  - 特許庁勤務経験と弁理士試験合格。

#### ステップ4: 講義内容の紹介

- **田村教授の特許法講義:**
  - 東京大学での講義録音を基に作成。
  - 田村教授の他の著作との違い。
- **電子書籍化の予定:** 8月に電子書籍版が公開予定。

#### ステップ5: 特許法講義の特色

- **特徴1: 文章の分かりやすさ:**

- 録音を基にしているため、口頭の説明が分かりやすく、編集によってさらに読みやすくなっている。
- **特徴2：参考にした本：**
  - 「一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書」を参考にした構成。
  - 年号や細かな事実を省き、ストーリーで語るスタイル。

#### ステップ6: 特許法の基本概念

- **積極的根拠と消極的根拠：**
  - 制度の導入理由としての積極的根拠と、その制度を取っても不都合がないことを示す消極的根拠の区別。
  - 解釈論と立法論の区別。

#### ステップ7: 解釈論の具体例

- **均等論の解釈：**
  - 特許権の範囲についての具体的な解釈と、その背後にある法律の趣旨の説明。

#### ステップ8: 特許法全体の構成

- **全体の体系的な構成：**
  - 特許権の効力と侵害を分けずに説明。
  - 特許法の条文の整理方法についての問題点と解決策。

#### ステップ9: 最後のまとめ

- **技術的事項への踏み込み：**
  - 裁判例を基にした具体的な技術の解説。

これが講義内容の主なポイントです。各ステップでの詳細な説明を参考に、特許法の複雑な概念を理解しやすくまとめています。

40

清水紀子特任助教による裏話を詳細に

ChatGPT

メモリを更新しました

清水紀子特任助教による裏話

講義作成の背景

- **特許法講義の制作背景：**
  - 特許法講義は、田村教授が東京大学で行っていた講義を基にしています。コロナ禍でオンライン授業となり、その録音データを活用することになりました。
  - 清水紀子特任助教は、これらの録音を元に構成し直し、教科書としての完成度を高めるために尽力しました。

## 清水特任助教の役割

- **電子書籍化のプロセス：**
  - 電子書籍版も 2024 年 8 月に公開予定であり、その制作過程にも清水特任助教が関与しています。
  - 清水特任助教は、田村教授の講義を分かりやすく再構成し、教科書としての体裁を整えるためのアドバイスや編集作業を担当しました。

## 具体的なエピソード

- **特許庁時代の経験：**
  - 清水特任助教は、特許庁での勤務経験があり、その経験が特許法講義の制作にも活かされました。
  - 特許庁での審査官としての経験から、実務的な視点を提供し、教科書の内容を充実させました。
- **初めての出会い：**
  - 清水特任助教と田村教授の出会いは、特許庁勤務時代に遡ります。特許庁近くのレストランで初めて会い、その後の長い付き合いが始まりました。
  - この出会いがきっかけで、清水特任助教は田村教授の教科書制作に深く関わることになりました。

## 清水特任助教の貢献

- **教科書の完成度向上：**
  - 清水特任助教は、講義録音を元にした文章をわかりやすく編集し、教科書としての質を向上させました。
  - コラムの追加や情報の整理を行い、読者にとって理解しやすい内容に仕上げました。
- **専門知識の活用：**
  - 清水特任助教は、特許法の専門知識を活かして、教科書に必要な情報を的確に盛り込みました。
  - 特許法における具体的な技術や審査の過程など、実務に基づいた視点を提供しました。

このように、清水紀子特任助教は特許法講義の制作において重要な役割を果たし、田村教授との共同作業を通じて教科書の完成度を高めました。